

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

羽島市地域公共交通協議会 (羽島市)

平成27年1月21日設置

令和6年6月11日 地域公共交通計画「別紙」(案)承認

令和7年3月 羽島市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和7年4月～令和12年3月)

令和7年3月27日 令和6年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

地域の特性・概要・公共交通の取り組みの背景

- ・ **岐阜羽島駅**を**交通結節点**として、広域的には鉄道や路線バスが、地域内ではコミュニティバスが運行
- ・ 高齢化の進展に伴い、都市間移動や**日常生活の足**として、各地域の移動ニーズにも対応した商業施設・医療施設等へのアクセスの確保が一層重要
- ・ 令和7年3月策定の「羽島市地域公共交通計画」に基づき、本市の地域公共交通が目指す将来像である「**人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通ネットワークの構築**」の実現に向けた取り組みを実施

羽島市地域公共交通計画(令和7～11年度)

基本方針 『人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通ネットワークの構築』

- 目標**
- ① 暮らしに便利でみんなに利用される公共交通の実現
 - ② おでかけ機会を創出し、まちを活性化させる公共交通の実現
 - ③ みんなが知っている、利用しやすい公共交通の実現
 - ④ みんなが協力して、ともに支える持続可能な公共交通の実現

主要な施策

- ・ コミュニティバスの路線・ダイヤの見直し
- ・ 乗車体験会等の開催
- ・ 公共交通のPRの実施
- ・ 地域別マップの作成
- ・ アダプトプログラムによるバス停の維持
- ・ キャッシュレス化の推進
- ・ 高校生の通学に対する補助の実施
- ・ バス停の待合環境の改善
- ・ 運転手確保対策の実施

公共交通ネットワークイメージ



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
公共交通のPRの実施	イベントや市の行事にて、公共交通のPRを実施	市内イベントで、車両展示やJR・名鉄等提供のグッズ配布を実施	コミュニティバスや鉄道・民間事業者のバス等、公共交通に対する理解や親しみが深まった。
商業施設や羽島温泉との連携	商業施設内におけるバス停設置及び駐輪場の使用について協議	「業務スーパー岐阜羽島店」に協力を依頼し連携	自転車でバス停まで移動する利用者が利用しやすい環境を確保できた。
コミュニティバスの無料乗車試行事業	小中学生を対象に、夏休み期間（R7.8/1～8/31）にコミュニティバスの運賃を無料化	期間中、小学生58名、中学生271名、合計329名が利用	短期間ながら一定の利用があり、児童生徒に公共交通を実際に利用してもらう機会として有効であった。
アダプトプログラムによるバス停の維持	中島中学校の生徒による、円空資料館バス停の清掃活動を実施し、地域の公共交通施設を身近に感じてもらう取組	令和7年11月に1回実施（R8年1月・2月にも各1回の活動を予定）	中学生が活動を通じて、地元を走るコミュニティバスへの理解及び親しみが高まる効果が期待される。
地域別マップの作成	出前講座において、目的地まで既存の公共交通を利用するおでかけマップを作成し、分かりやすい公共交通の使い方を示す	おでかけマップの作成を契機に、老人クラブ主体で乗車体験会が開催された（R7.11月）	地域主体の自発的な活動につながり、公共交通利用促進の好事例となった。また、地域需要に応じた情報提供の有効性が確認できた。



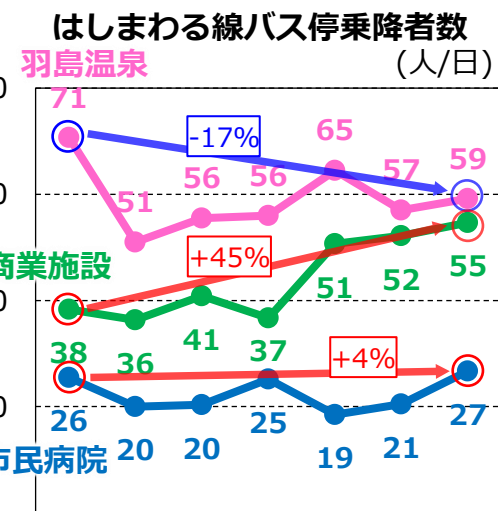
取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
キャッシュレス化の推進	利用者の利便性向上及び運賃収受の効率化を図るため、コミュニティバスにキャッシュレス決済（PayPay）を導入	令和7年10月よりPayPay利用への対応を開始	現金不要の乗車が可能となり、若年層や来訪者等の利用しやすさが向上。今後継続的に利用状況を確認する。
バス停の待合環境改善	市役所・市民病院に、コミュニティバスの到着時刻を表示するデジタルサイネージを設置し、屋内で快適にバスを待つことができる環境を整備	令和7年8月から運用を開始	利用者の待合環境が良好になることで、満足度向上に資することが期待される。また、情報提供の充実により、公共交通の利用促進にもつながると期待される。
運転手確保対策	コミュニティバス運転手の確保に向け、市内回覧等を活用して募集チラシを配布し、周知を強化	問い合わせ・面接 3件（採用実績なし）	一定の関心は得られたが採用には至らず、運行事業者の人員確保が引き続き課題である。募集手法の継続的な検討が必要。
路線再編に関する検討	コミュニティバスの路線・ダイヤ見直しに加え、民間連携による運行方式や柔軟な運賃体系の可能性について検討	利用状況を鑑み、既存路線再編の方針に。路線再編案は令和8年10月実施に向けて継続検討。	新方式の導入は現状の需要や運行体制との整合が課題である一方、検討過程で得られた知見は将来の見直し基礎となる。今後も需要動向を踏まえた継続的な検討が必要。



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

地域公共交通計画「別紙」(R6.6承認)における目標値の達成状況

路線名	年度							目標値(人)	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7	
★はしまわる線 (旧・市内線)	43,851 (前年比)	33,333 (-24%)	33,919 (+2%)	37,860 (+12%)	41,567 (+10%)	44,222 (+7%)	43,878 (-1%)	< 47,000	未達成
東・はしまわる線	7,021	6,495	6,669	6,782	7,333	9,108	8,952	> 8,290	達成
西・はしまわる線	7,250	5,515	5,406	5,342	5,959	6,464	6,528	< 6,740	未達成
中・はしまわる線	13,615	9,442	10,767	12,864	15,040	15,124	14,322	< 17,010	未達成
温泉・はしまわる線	15,965	11,881	11,077	12,872	13,235	13,526	14,076	< 14,960	未達成
南部線	57,492 (前年比)	42,974 (-25%)	39,161 (-9%)	44,671 (+14%)	48,642 (+9%)	51,862 (+7%)	51,196 (-1%)		
合計	101,343 (前年比)	76,307 (-25%)	73,080 (-4%)	82,531 (+13%)	90,209 (+9%)	96,084 (+7%)	95,074 (-1%)		



R1.5 R2.7 R3.5 R4.5 R5.5 R6.5 R7.5
乗降等調査結果

年度=10月～9月

★フィーダー系統補助路線 ※羽島温泉は開館日の乗降人数を計上

目標値の達成状況に関する考察

はしまわる線

- 令和7年度は利用者が1%減少しているが、羽島温泉の臨時休館(22日間)が少なからず影響しているものと考えられる。その要因を考慮すると、ほぼ前年度と同程度であると推計する。
- 主要バス停の乗降者数について、令和4年度以降の推移をみると、商業施設は利用者数が一貫して増加している。羽島温泉は令和2年度に大きく落ち込んだ後、年度ごとに変動はあるものの、直近(R7.5)は前年から増加している。市民病院は20人/日程度で概ね横ばいである。

南部線

- コロナ禍以前は、高校生の減少に伴い利用者数の減少が続いていた。令和7年度は、羽島温泉の臨時休館(22日間)が少なからず影響しているものと考えられるが、継続して動向を注視する。

自己評価

評価について、令和8年1月20日に地域公共交通協議会で承認

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

羽島市地域公共交通計画（R7.3策定）における評価指標

計画目標	評価指標	実績値		目標値		考察
		R6(基準値)	R7	**R7	R11	
暮らしに便利 でみんなに利用 される公共交 通の実現	利用者数(人/年) ・名鉄竹鼻線・羽島線 ・名阪近鉄バス羽島線 ・羽島市コミュニティバス	*183万9,101 13万3,638 9万6,084	達成:赤 未達成:青 185万3,387 14万4,187 9万5,074	187万3,270 13万6,290 9万6,547	200万9,948 14万6,900 9万8,400	【一部達成】 名鉄は、目標値には達しなかつたが、増加傾向。羽島市コミバスは、1%減少した。
	高齢者定期券購入者数 (人・月)	438	483	440	450	【達成】 1か月定期・3か月定期が減少する一方で6か月定期が増加し、目標達成
おでかけ機会 を創出し、ま ちを活性化さ せる公共交 通の実現	中心市街地・主要施設で のコミュニティバス乗降者数 (人/日)	356	366	358	365	【達成】 商業施設及び市民病院の乗降客数増加に伴い、目標達成
みんなが知っ ている、利用 しやすい公共 交通の実現	利用促進PR実施回数 (回/年)	4	8	4	6	【達成】 市内イベント、進路説明会でのPRや出前講座、無料乗車イベントなど幅広く実施できた
	コミュニティバス(自宅最寄りバス停)の認知度(%)	52	—	—	60	(R7はアンケート未実施)
みんなが協 力して、とも に支える持続 可能な公共 交通の実現	利用者1人あたりの 運行経費(円/人)	*875	884	875	875	【未達成】 利用者数が微減した一方、人件費や燃料費の増加により利用者1人あたりの運行経費が上昇
	主要交通結節点での 乗り継ぎ利用者数 (人/日)	14.7	20.2	16.8	25.0	【達成】 岐阜羽島駅における、はしまわる線同士、名阪近鉄バス、新幹線、名鉄電車との乗り継ぎが増加

**印の値は、R5年度の値を使用

**印の値は R6実績値及びR11の目標値を基に、線形補完により算定

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>■ 利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスの利用者数は、羽島温泉の臨時休館の影響を考慮すると、令和7年度は横ばいの状況であると推測する。 ・ 商業施設では乗降者数が大きく伸び、コロナ禍前を超えて増加したが、市民病院や羽島温泉など停留所によっては増加が限定的である。 ・ デマンド型交通(mobi)の実証実験により、地域の潜在的な需要や新たな移動手段への受容性について一定の知見が得られた。 	<p>■ 利用実態に即した運行体系への再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 停留所ごとの利用状況の違いを踏まえ、需要に応じた効率的・効果的な運行ダイヤ・ルートの見直しを進める。 ・ デマンド型交通の実証実験において、利用の多かった乗降場所をコミュニティバスの路線に反映し、需要に合わせたサービスを構築する。今後も、地域の需要を踏まえ、移動サービスのあり方を検討する。
<p>■ 公共交通の認知・PRの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料乗車試行、出前講座、乗車体験会、地域別マップ作成など、幅広い層の年代・団体を対象としたPRを展開し、公共交通に触れる機会が広がった。 ・ アダプトプログラムによるバス停清掃活動は、地域が公共交通を支える取組として実施されている。 ・ PayPay導入や施設内の待合環境整備などにより、利用環境が向上した。 	<p>■ 利用促進と認知向上に向けた取組の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層・地域団体・高齢者など対象に合わせたPRや体験機会を継続し、公共交通への理解を深めることで、利用促進を図る。 ・ 地域住民が清掃活動等を通じ、公共交通への親しみを持ってもらうことにより、持続可能な支援体制の形成につなげる。 ・ ICTを活用した情報提供、キャッシュレス化等を進め、使いやすい公共交通環境の整備を進める。
<p>■ 持続可能な運行に向けた体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転手の確保が引き続き難しい状況にあり、今後の安定運行の基盤確保が重要な課題となっている。 ・ 路線再編の検討を進めた結果、現状は新たな運行方式の導入には至らなかったが、地域ニーズに応じた継続的な運行形態の見直しが必要。 	<p>■ 持続可能な運行体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転手不足への対応を強化し、事業者との連携や募集手法の工夫により、安定的に運行を維持できる体制の確保を図る。 ・ 今後の路線再編や運行形態の見直しに向け、中長期的な視点で効率性と利便性を両立させる運行体系について、継続的に検討する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの乗り案内や時刻表の見方等や、デマンド型交通「mobi」に関する出前講座を開催し、公共交通に親しみを感じてもらえるよう、利用促進に向けた取組をされたことを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座において、目的地まで既存の公共交通を利用するおでかけマップを作成し、分かりやすい公共交通の使い方を示すことで、公共交通の利用促進を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地域の移動需要に合わせたお出かけマップを作成し、利用に直結する情報提供を充実させ、既存の公共交通利用促進につなげる。
	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の進路説明会内で、コミュニティバスの説明会を開催し、コミュニティバスを通学手段の選択肢として認識してもらうきっかけを作られたことを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会においてコミュニティバスの説明を継続し、通学手段としての周知に取り組んでいる。また、補助金のオンライン申請について啓発し、利便性が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と連携し、通学利用に必要な路線・時刻等の情報提供を継続する。高校生の定期券購入の利便性等向上のためデジタル定期券の整備を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> イベントを通し住民に対し、コミュニティバスやデマンド交通だけではなく鉄道も含めた公共交通全般に親しんでいただくための取組を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントで公共交通のPRを実施し、バス及び鉄道を含む既存の公共交通への理解が深まるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント等でのPRを継続しつつ、住民層に応じた情報発信手法の工夫を進め、公共交通全体の理解を深め、利用向上につなげる。
	<ul style="list-style-type: none"> 「mobi」の実証実験から得られたデータを活用して、今後のデマンド交通の導入可能性や、新たな交通サービスに向けて関係者間で検討されることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「mobi」の実証実験で得られたデータを整理し、令和8年10月のコミュニティバス路線再編の検討に反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験データを基礎資料として、路線再編後の運行改善や今後の交通サービスの検討に継続的に活用する。
	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート・高校生アンケート等から現状を把握し、分析や課題整理を行い、次期公共交通計画への反映とその後の取組の着実な推進を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート及び高校生アンケートの結果を分析し、地域公共交通計画に反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を移動需要の抽出や今後の交通サービス検討の材料とし、計画に位置付けた施策の具体化や運行体系に反映していく。

前回：令和7年3月27日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<ul style="list-style-type: none"> 「mobi」の実証実験について、利用状況、既存の公共交通とのすみ分け、外出等の活発化など、実験データの分析や効果の検証が十分に実施されることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政と民間が連携し、公共交通の利用促進を図ることができた。 実証実験より取得した利用履歴等のデータから市民の移動実態を把握することができ、今後の交通サービスの検討材料として活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析したデータを活用し、今後のデマンド型交通の導入可能性等、新たな交通サービスの展開を含めた検討を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> 「mobi」とコミュニティバスの使い分けの提案といった企画画面やデータ取得等に関し、主体的に関わっていくことを期待する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 次期地域公共交通計画の策定に際しては、評価指標などを始め、引き続き分かりやすさに配慮されるようお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標を含め分かりやすさに配慮した上で次期地域公共交通計画素案を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい計画の策定に向けて引き続き検討を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の現状も注視し、継続的な利用促進を図られることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通への関心を高めるため、鉄道を含めた公共交通のPRの実施を次期計画の事業として盛り込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期計画に基づき、引き続き交通結節点での幹線交通どうしの接続を維持し、鉄道を含めたPRの実施により利用促進を図る。

※前々回：令和6年3月21日

PDCAの推進体制

対象	実施時期	評価方法
①個別事業の評価・見直し	毎年度	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、事業の進捗状況を確認し、目標達成に向けた事業内容やスケジュールの見直しを行います。 バスの運行ルートや運行ダイヤは利便性に大きく影響するため、乗降調査や利用者アンケートの実施により利用状況や利用者の意見・要望を1年ごとに評価・検証し、より利便性の高いサービスが提供できるよう運行計画の見直しを行います。
②個別路線の評価・見直し	毎年度	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標の達成状況による評価・検証を1年ごとに行い、次年度事業計画の内容について検討します。
③計画全体の評価・見直し	最終年度 (令和11年度)	<ul style="list-style-type: none"> 計画の最終年度である令和11年度に、計画目標及び評価指標の達成状況による評価・検証を行い、本計画の内容について見直しを行います。

直近の会議の開催状況

【地域公共交通協議会】

○第1回会議 令和7年5月7日（書面協議）

主な議題：R7事業計画、当初予算

○第2回会議 令和7年6月27日

主な議題：R6事業報告、収支決算・監査報告
R6事業評価（二次評価結果）
R8地域公共交通計画「別紙」（案）の協議

○第3回会議 令和8年1月19日

主な議題：R6事業評価（自己評価）

【公共交通会議】

○第1回会議 令和7年10月27日

主な議題：羽島市コミュニティバスの路線再編について

今後のスケジュール

令和8年2月

・羽島市コミュニティバスの路線再編
についての協議

令和8年4月

・再編後のダイヤに関する協議
・運賃協議会

令和8年10月

・羽島市コミュニティバスの路線再編